

ご修理のときは

お買い求めの販売店、またはホームセンターにお申し付けください。
なお、修理を依頼する販売店やホームセンターがお近くにない場合は、
弊社 WEB サイトから修理受付けを行っていますのでアクセスしてください。



<https://www.hikoki-powertools.jp/contact/repair/>

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておくと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

お客様相談センター

●フリーダイヤル (9:00~18:00)

0120-20-8822 ※携帯電話、IP電話からもご利用いただけます。

工機ホールディングス株式会社

〒108-6018 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟18階)

電動工具ホームページ — <https://www.hikoki-powertools.jp>

部品コード C99748201 311 F

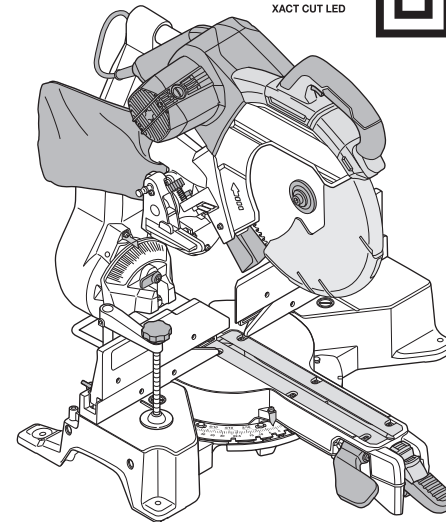
HIKOKI

取扱説明書

卓上スライド丸のこ

305 mm C 12RSH3 [LED シャドーライト付]

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、
ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、
正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に
大切に保管してご利用ください。



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

はじめに

電動工具の安全上のご注意	1
二重絶縁について	5
本製品の使用上のご注意	5
用途	7
各部の名称	7
仕様	8
標準付属品	9
別売部品	10

使い方

ご使用前の準備	11
のこ刃の取付け (交換)	13
ご使用前の点検	15
スイッチについて	17
LED シャドーライトの使い方	17
ダストバッグの使い方	18
各種調整方法について	19
バイス装置の使い方	26
切断作業の基本	27
傾斜切断	31
角度切断	32
複合 (角度+傾斜) 切断	33
いろいろな切断	35
ガイドの取付け	37

その他

保守・点検	38
ご修理のときは	裏表紙

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、**⚠注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

電動工具の安全上のご注意

⚠警告

感電、火災、重傷を招く事故を未然に防ぐため、ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。

なお、文中の「電動工具」とは、電源式（コード付き）電動工具を示します。

作業場の安全性

- ① 作業場は整理整頓して、十分な照明を確保してください。
散らかった暗い場所や作業台は、事故を招く恐れがあります。
- ② 爆発を誘引することがある可燃性の液体やガス、または粉じんがある所で電動工具を使用しないでください。
電動工具から発生する火花が発火の原因になります。
- ③ 電動工具の使用中は、子供や第三者を近づけないでください。
注意が散漫になり、操作に集中できなくなる場合があります。

電気に関わる安全性

- ① 電動工具の電源プラグに合ったコンセントを使用してください。電源プラグを改造しないでください。また、アダプタプラグをアース（接地）された電動工具と一緒に使用しないでください。
改造していない電源プラグおよび、それに対応するコンセントを使用すれば、感電のリスクは軽減されます。
- ② 電動工具の使用中は、金属製のパイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などアース（接地）されている物に体を接触させないようにしてください。
体が触れた場合、感電のリスクを増大させます。

⚠警告

屋外で使用する際には、③～⑤の注意が必要です。

- ③ 電動工具は、雨または湿気がある状態にさらさないでください。
電動工具に水が入ると、感電のリスクが増大します。
- ④ コードを乱暴に扱わないでください。
 - 電動工具を移動させたり、引いたり、または電源プラグを抜くためにコードを利用しないでください。
 - コードは、熱、油、角のとがった所、または動く物からはなしておいてください。コードが損傷したり、絡まったりすると、感電のリスクが増大します。
- ⑤ 屋外使用に合った延長コードを使用してください。
屋外使用に適したコードを使用すれば、感電のリスクは軽減されます。

人への安全性

- ① 電動工具の使用中は、油断をせず、常識を働かせ、いま自分が何をしているかに注意して作業してください。
疲れていたり、アルコールまたは医薬品を飲んでいるときは使用しないでください。一瞬の不注意で、深刻な傷害を招く場合があります。
- ② 安全保護具を使用してください。
 - 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
 - 滑り防止安全靴やヘルメット、耳栓やイヤマフなどの安全保護具を使用することで、傷害のリスクが軽減されます。
- ③ 不意な始動を避けるため、電源プラグをコンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
スイッチに指を掛けて運んだり、スイッチが入っている電動工具の電源プラグをさし込むと、不意に始動し事故を招く恐れがあります。
- ④ 電動工具の電源を入れる前に、レンチや調整キーをはずしてください。
工具の回転部分にレンチやキーなどを付けたままにしておくと、傷害を招く恐れがあります。
- ⑤ 無理な姿勢で作業をしないでください。
常に適切な足場とバランスを維持することで、予期しない状況でも電動工具をより適切に操作することができます。
- ⑥ きちんとした服装で作業してください。
 - だぶだぶの衣服や装飾品は着用しないでください。
 - 髪や衣服、および手袋を回転部に近づけないでください。
回転部に巻き込まれる恐れがあります。
- ⑦ 集じん装置が接続できる物は、適切に使用してください。
粉じんによる人体への悪影響を軽減することができます。

⚠ 警告

電動工具の使用および手入れ

- ① 無理に使用せず、用途に合った電動工具を使用してください。
用途に合った電動工具を使うことでより良く、安全な作業が行えます。
- ② スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は事故を招く恐れがあるので、使用せず修理を依頼してください。
- ③ 誤作動防止のため、次の作業前は電動工具のスイッチを切り（OFF）、電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - 準備や調整。
 - 付属品や別売部品の交換。
 - 保守・点検や保管。
 - その他、危険が予想される場合。このような安全対策によって電動工具を誤って始動させるリスクが軽減されます。
- ④ 使用しない電動工具は、子供の手が届かない所に保管し、電動工具に不慣れな者や取扱説明書を読んでいない者には電動工具を使用させないでください。
電動工具を扱い慣れていない者に渡すと事故の原因になります。
- ⑤ 電動工具の保守・点検を適切に行ってください。
 - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
 - 異常がある場合は、使用する前に電動工具の修理を行ってください。電動工具の保守が不十分であることが、事故の原因になります。
- ⑥ 先端工具は、鋭利かつ清潔に保ってください。
先端工具を適切に手入れし、先端を鋭利に整えておくことで、作業を円滑にし操作が容易になります。
- ⑦ 電動工具、付属品、別売部品、先端工具などは、作業条件や、実際の作業を考慮し、取扱説明書に従って適切に使用してください。
取扱説明書に書かれていない使用方法で作業すると、傷害を招く恐れがあります。
- ⑧ 電動工具は異常な高温、または低温の場所で使用すると能力を十分発揮できません。

整備

- ① 電動工具の修理は、修理専門要員が純正交換部品だけを用いて行ってください。
これにより電動工具の安全性を維持することができます。

その他の項目

- ① 取扱説明書はお読みになった後も、使用する方がいつでも見られる所に大切に保管し、利用してください。
他の人に電動工具を貸し出す際は、取扱説明書も一緒にお渡しください。

⚠ 警告

- ② 十分な防じん対策や飛散防止対策をしてください。
特に、人体に有害な成分を加工するときは注意してください。
- ③ アスベスト（石綿）周辺の環境下（除去作業を含む）で使用しないでください。
アスベストは、人体に肺がん等の重大な健康被害を発症させる物質です。
- ④ 加工する物をしっかりと固定してください。
加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。
手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑤ 作業前に確認してください。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。
 - 巻き込まれる恐れのある手袋はしないでください。
 - 安全の責任を負う人の監視または指示がないかぎり、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
 - 保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定の機能を発揮するか確認してください。
 - コードや延長コードは事前に点検し、損傷している場合には修理・交換してください。
 - 屋外で延長コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。
- ⑥ 電動工具は取扱説明書に従い、正しく使用してください。
 - 大形の電動工具で行う作業には、小形の電動工具・別売部品を使用しないでください。
 - 安全に能率良く作業するために、電動工具の能力に合った負荷で作業してください。
 - 電動工具は指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑦ 指定の付属品や別売部品を使用してください。
この取扱説明書、および弊社カタログに記載されている指定の付属品や別売部品以外の物を使用しないでください。
- ⑧ メンテナンスをきちんと行ってください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - 損傷した保護カバー、その他の部品交換は、取扱説明書の指示に従ってください。
取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に依頼してください。
 - この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。
 - アスベスト（石綿）周辺の環境下（除去作業を含む）で使用した電動工具の保守・点検・修理は受けられません。

二重絶縁について

二重絶縁とは、電気が流れる部分と手に触れる外枠部品との間が、異なる二つの絶縁物で絶縁されている構造のことです。たとえ一つの絶縁物がこわれても、もう一つの絶縁物で保護されるため感電しにくい構造です。

お求めの製品は二重絶縁構造であり、銘板に回マークで表示してあります。純正品以外の部品と交換したり、間違っ て組み立てたりすると二重絶縁構造でなくなります。電気系統の修理や部品の交換はお買い求めの販売店に依頼してください。

本製品の使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、卓上スライド丸のこについて、次に述べる注意事項を守ってください。

⚠警告

- ① 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。
表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に速くなり、けがの原因になります。
- ② 直流電源やエンジン発電機、変圧器などの電源で使用しないでください。
製品の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。
- ③ 保護カバーを固定しないでください。また、円滑に動くことを確認してください。
のこ刃が露出していると、けがの原因になります。
- ④ のこ刃は、外径 290～305 mm の範囲の物を使用してください。
保護カバーのおおいが不完全となり、けがの原因になります。
- ⑤ 切断中に、材料の重みでのこ刃が挟み付けられないように、切断する材料の受け台を設けてください。
- ⑥ 使用中は、のこ刃や回転部および切りくずの排出部へ手や顔などを近づけないでください。
- ⑦ スライド切断作業は押し切りで行ってください。
手前に引きながらスライド切断をすると、強い反発力が生じ、けがの原因になります。
- ⑧ ヘッド部を押し下げるときは、ターンテーブルや材料の上に手を置かないでください。
のこ刃が手に近づき、けがの原因になります。
- ⑨ 切断作業時は作業者以外、作業場へ近づけないでください。
のこ刃に材料が巻き込まれて周囲に飛散した場合など、けがの原因になります。
- ⑩ 金属系サイディングボードなど用途以外の材料を切断しないでください。
金属の切りくずが周囲に飛散し、火災やけがの原因になります。

⚠警告

- ⑪ 使用中、機体が高温になったり、異常音、異常振動がしたりするときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。
- ⑫ 誤って落としたり、衝撃が加わったりしたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことを点検してください。

⚠注意

- ① 付属品や別売部品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
- ② のこ刃にヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。
- ③ 使用中は、軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。
- ④ 作業前に、周囲の安全を確認してから空転させ、機体の振動やのこ刃の面振れなどの異常がないことを確認してください。
- ⑤ ブレーキが働くときの反発力により、ヘッド部が下降しますので注意してください。
- ⑥ 材料に釘などの異物が付いていないことを確認してください。
刃こぼれだけでなく、反発により思わぬけがの原因になります。
- ⑦ 切断しようとする材料の上に手を置いたり、コードを材料の上に載せたまま作業しないでください。
- ⑧ 高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。また、コードを引っ掛けたりしないでください。
材料や機体などを落としたとき、事故の原因になります。
- ⑨ シャドーライトをのぞき込んで、直接光を目に当てないでください。
- ⑩ シャドーライト点灯時や消灯直後は、レンズ部が高温になるため、触らないでください。

⚠警告マークについて

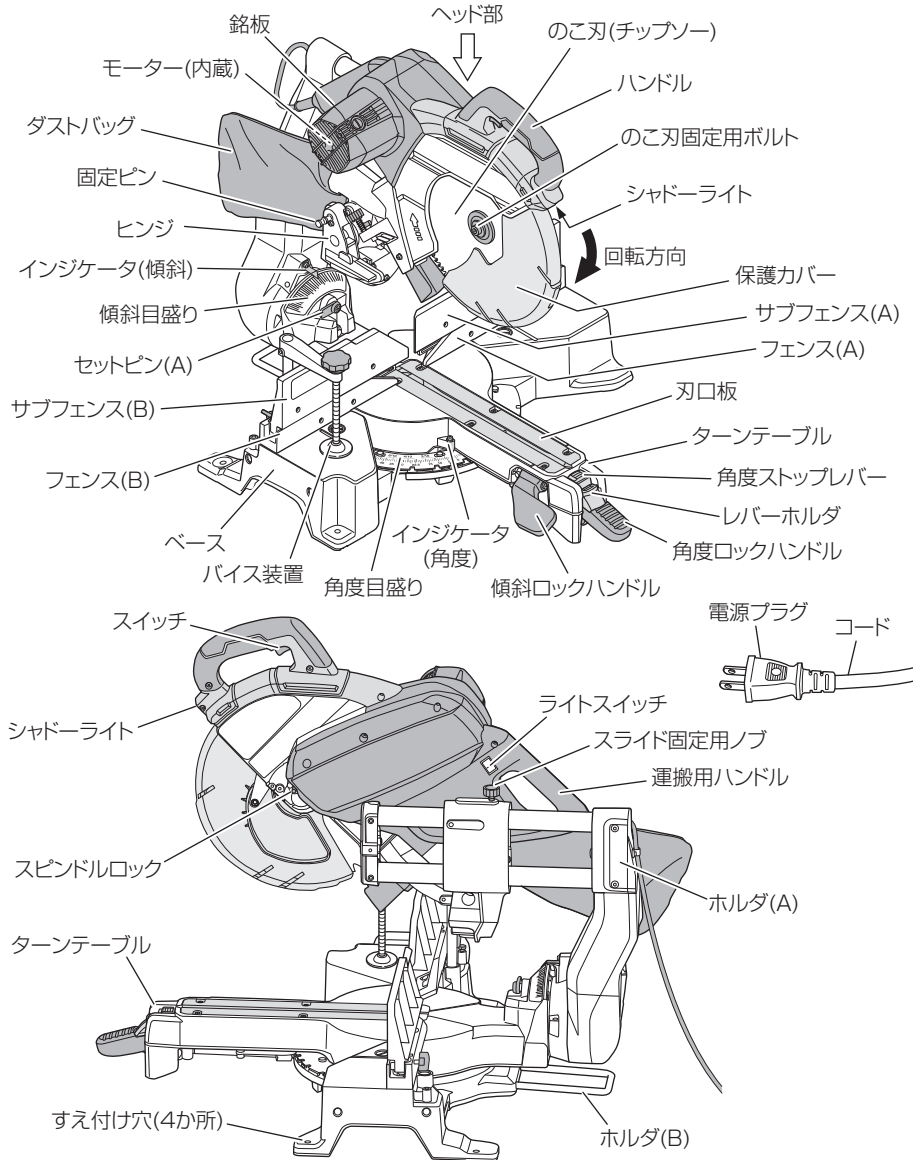


このマークのある操作・手順では、必ずスイッチを切り (OFF)、コンセントから電源プラグを抜いてください。
電源プラグをコンセントにさしたまま準備や点検、のこ刃の交換などをすると、予期できない作動を招いて事故やけがの原因になります。

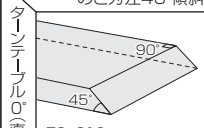
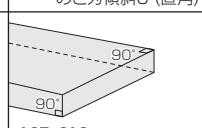
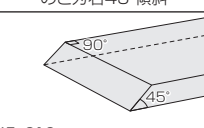
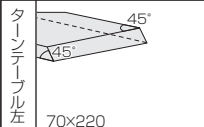
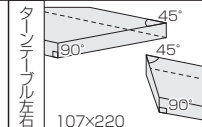
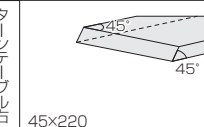

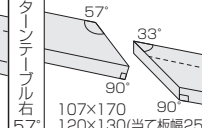
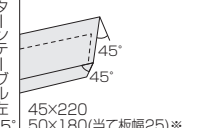
用途

- 各種木材の切断
- 各種合板、化粧板、軟質繊維板、ハードボード等の切断
- アルミサッシの切断

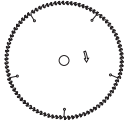
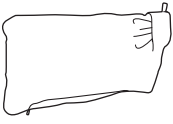

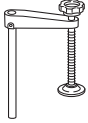

各部の名称



仕様

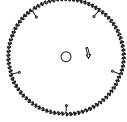
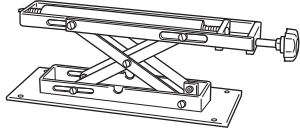
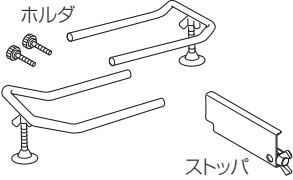
形名	C 12RSH3 [LEDシャドーライト付]		
使用電源	単相交流 50/60 Hz 共用 電圧 100 V		
全負荷電流	15 A		
消費電力	1,400 W		
モーター	単相直巻整流子モーター		
使用できるのこ刃	外径 290～305 mm × 穴径 25.4 mm		
無負荷回転数	3,200 min ⁻¹ {回/分}		
最大切断寸法 (最大高さ × 最大幅)	のこ刃左45°傾斜	のこ刃傾斜0°(直角)	のこ刃右45°傾斜
	 タイプフル0°直角 70×312 75×260(当て板幅25)*	 タイプフル0°直角 107×312 120×260(当て板幅25)*	 タイプフル0°直角 45×312 50×260(当て板幅25)*
	 タイプフル左45° 70×220 75×180(当て板幅25)*	 タイプフル左右45° 107×220 120×180(当て板幅25)*	 タイプフル右45° 45×220 50×180(当て板幅25)*
	 タイプフル右45° 70×220 75×180(当て板幅25)*	 タイプフル右57° 107×170 120×130(当て板幅25)*	 タイプフル左45° 45×220 50×180(当て板幅25)*
※ 当て板を取付けたときの最大寸法です。 ヘッド部の底面と材料が接触する恐れがありますので、十分注意し作業をしてください。詳しくはP.21「高さの高い材料切断時の調整」を参照してください。			
角度切断範囲	左 0°～45°	右 0°～57°	
傾斜切断範囲	左 0°～45°	右 0°～45°	
複合切断範囲	左傾斜0°～45°	左回転0°～45°	右回転0°～45°
	右傾斜0°～45°	右回転0°～45°	左回転0°～45°
シャドーライト	白色LED		
すえ付け寸法	幅 609 mm × 奥行 255.5 mm		
質量	23.8 kg		
コード	2心キャブタイヤケーブル 4.5 m		

標準付属品

305 mm チップソー (刃数 90) 本体装着		1 枚	ダストバッグ		1 個
ホルダ (B)		1 個	バイス		1 個
六角棒スパナ		1 個			

別売部品 (別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください。)

詳しくは、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

<p>のこ刃 (チップソー) 各種取りそろえております。 用途に応じてお選びください。</p> 	<p>卓上丸のこ用補助ローラ 高さ：50～60 mm 最大荷重：150 kg</p> 
<p>ガイド 〈使い方は、P.37 参照〉 長尺物の材料支持としてご使用 になると便利です。 定寸切りにはストップを使用し て作業すると便利です。</p> 	<p>電動工具用集じん機、木工用集じん機 各種集じん機に接続して使用することができます。 集じん機への取付けについては、弊社総合カタログの『集じん機と各種電動工具の接続』のページを参照してください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>⚠ 警告</p> <p>アルミ材を切断する場合は、集じん機を使用しないでください。 切断時の切りくずにより、集じん機が発煙、発火する恐れがあります。</p> </div>

🔧 ご使用前の準備

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

●梱包材の取りはずし

工場出荷の際、製品の運搬時のトラブルを防ぐため梱包材を取付けてあります。機体を梱包箱より取り出した後、梱包材を必ず取りはずしてください。

●漏電しゃ断器の設置

本製品は二重絶縁構造のため、法令により漏電しゃ断器の設置は免除されています。しかし、万一の感電を防止するためにも漏電しゃ断器が設置されている電源に接続することをお勧めします。

●延長コードを使う場合

電気が流れるのに十分な太さの、できるだけ短いコードを使用してください。

右表は使用できるコードの太さと、最大の長さです。

これ以上長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因になります。

コードの太さ (mm ²) (導体公称断面積)	最大の長さ (m)
1.25	10
2	15
3.5	30

※ 導体公称断面積は、コードに表示されています。

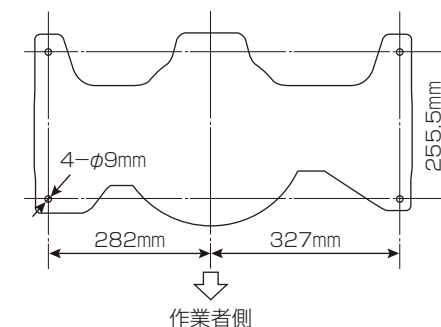
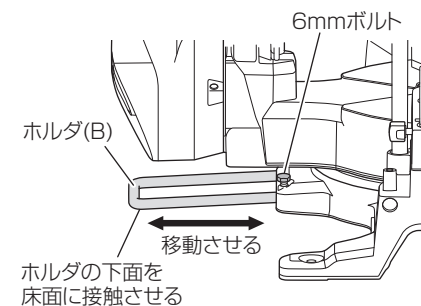
●卓上丸のこのすえ付け

傾斜のない平坦な場所へ、安定した状態にすえ付けます。

機体を安定させるため、ベース後方に付属のホルダ (B) を右図のように取付けます。お手持ちのスパナで 6 mm ボルトをゆるめ、ホルダ (B) 下面が床面に接するようホルダ (B) を移動させ、6 mm ボルトで確実に締め、固定します。

機体を作業台などに固定してすえ付ける場合は、ベースのすえ付け穴 (4 か所、内径 9 mm) を使用してください。

固定には 8 mm ボルト、ナットをご用意ください。



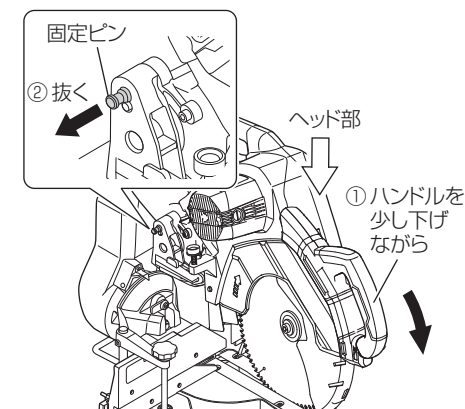
●固定ピンの解除

工場出荷時には、ヘッド部を固定ピンで固定してあります。

使用前に、固定ピンを矢印方向に抜いてください。

固定ピンは、ハンドルを少し下げながら操作すると簡単に抜きさすことができます。

運搬するときは、ヘッド部を固定するためハンドルを押し下げ、固定ピンをさし込みます。



のこ刃の取付け (交換)



この作業時は必ずスイッチを切り、プラグを抜いてください。

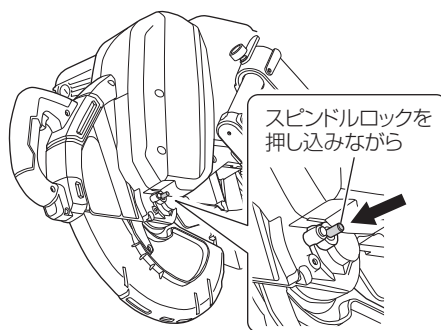
本製品は、工場出荷時にのこ刃が装着されています。

のこ刃を新品と交換する際は、以下の手順で行ってください。

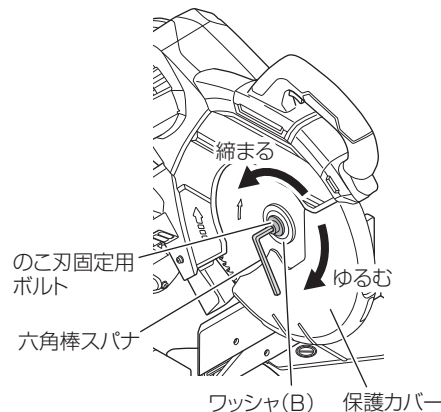
警告

- 付属の六角棒スパナ以外で、のこ刃固定用ボルトを着脱しないでください。締めすぎや締付け不足になります。
- のこ刃の取付け後は、スピンドルロックが元の位置に戻っていることを確認してください。

- 1 スピンドルロックを押し込みながら、付属の六角棒スパナでのこ刃固定用ボルトをゆっくりと回転させると、のこ刃の回転が止まる位置があります。この状態で、スピンドル(のこ刃軸)が固定されます。この状態のまま、六角棒スパナを時計方向に回すと、のこ刃固定用ボルトがゆるみます。



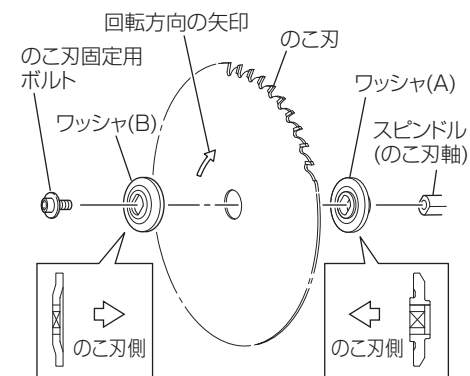
- 2 のこ刃が落下しないように押さえながら、のこ刃固定用ボルト、ワッシャ(B)を取りはずします。



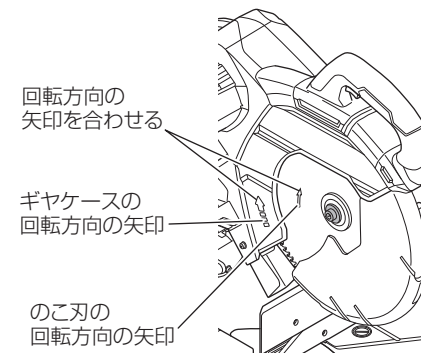
- 3 保護カバーを持ち上げ、古いのこ刃を取りはずします。

- 4 ワッシャ(A)、ワッシャ(B)、のこ刃固定用ボルトに付いている切りくずをよく除去します。

- 5 各部品は右図のように取付けます。ワッシャ(A)、ワッシャ(B)はスピンドルの二面幅に合わせ、向きに注意して取付けてください。のこ刃は矢印の方向が、ギヤケースの回転方向の矢印と同じになる向きで取付けてください。



- 6 スピンドルロックを押し込みながら付属の六角棒スパナで、のこ刃固定用ボルトを反時計方向に回すとボルトが締まります。



- 注** のこ刃取付け後、のこ刃の面振れを点検してください。(P.15④参照)

ご使用前の点検

⚠ 警告

③ スピンドルロックや⑥ スイッチが元の位置に戻らない場合、⑤ 保護カバーが円滑に動かない場合、⑧ ブレーキが正常に作動しない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

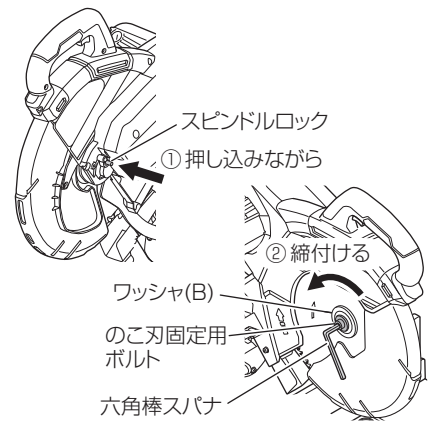
1 スイッチが切れていることを確かめる

スイッチが入っているの知らずに電源プラグをコンセントにさし込むと、不意に機体が起動し、思わぬ事故の原因になります。

2 電源を確かめる

銘板に表示してある電源で使用してください。

3 のこ刃の締付けを確かめる

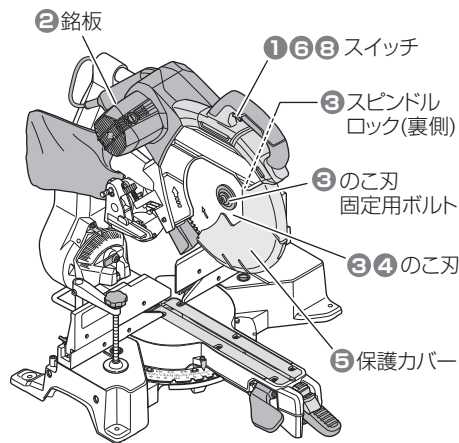


注 のこ刃を締付けた後、スピンドルロックが元の位置に戻っていることを確認してください。

4 のこ刃の面振れを点検する

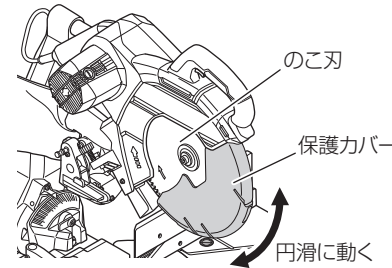
スピンドルロックを押さずに、付属の六角棒スパナで、のこ刃固定用ボルトをスピンドル(のこ刃軸)端面から見て反時計方向に回し、面振れを点検してください。

注 面振れが大きいときは、P.13「のこ刃の取付け(交換)」を参照して、のこ刃、ワッシャ(A)、ワッシャ(B)、のこ刃固定用ボルトに異物が挟まっていないかを確認してください。



5 保護カバーの動きを確かめる

- 保護カバーは、のこ刃が体に触れることを防ぎます。
- のこ刃をおおるように円滑に動くことを確認してください。



注 保護カバーに切りくずなどが付着して、のこ刃先が見にくくなったときは、布などでふき取ってください。

6 スイッチの動きを確かめる

スイッチを引きます。はなした後、スイッチが元の位置に戻ることを確認してください。

7 コンセントを確かめる

コンセントがガタついたり、電源プラグが抜けるようだと修理が必要です。そのまま使用すると危険です。電気工事店に相談してください。

8 ブレーキがかかることを確かめる

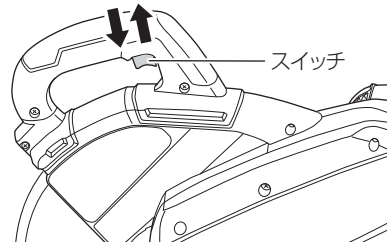
本製品はスイッチを切ると同時に、のこ刃の回転にブレーキがかかる構造になっています。使用前に、ブレーキがかかることを確認してください。

9 ためし切りをする

作業用途に応じて、ためし切りを行ってください。精度がでない場合は、P.19「各種調整方法について」に従って調整してください。

スイッチについて

スイッチを引くと、のこ刃が回転します。
スイッチをはなすとスイッチが戻り、のこ刃の回転にブレーキがかかり停止します。



LED シャドーライトの使い方

LEDシャドーライト[XACT CUT LED™]機能は、刃物の影を材料に投影させます。これにより、切断精度を向上させます。なお、ライトの位置調整は不要です。

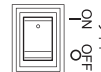
⚠ 警告

シャドーライトが点灯している間は通電状態ですので、スイッチに指を掛けないでください。
のこ刃が回転する恐れがあります。

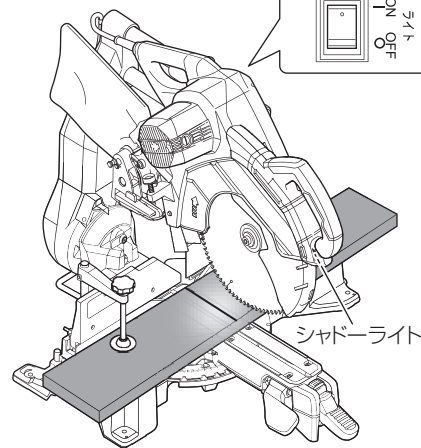
- 1 ライトスイッチをON側に押し、シャドーライトが点灯します。OFF側に押し、消灯します。



ライトスイッチ



- 2 材料から、5 mm 程度上方にブレード先端が位置するようにヘッド部を押し下げます。のこ刃の影が材料に投影され、切断時に刃先が材料に接触する位置が示されます。のこ刃の影と墨線を合わせて、切断作業を行ってください。(P.28「墨線の合わせ方」参照)



- 注** レンズに付着したごみは、柔らかい布等でふき取り、レンズに傷が付かないようにしてください。

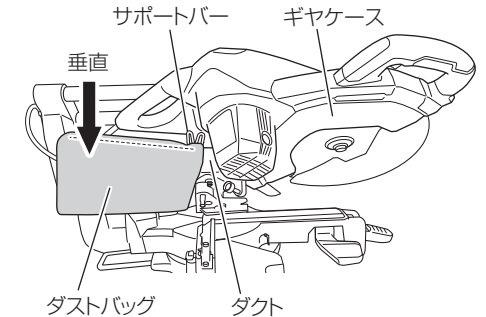
ダストバッグの使い方

- 注**
- 傾斜切断の場合は、切りくずが詰まりやすくなり、ダクト、ギヤケース内に切りくずが詰まる場合があります。早めにダストバッグから切りくずを取り除いてください。
 - 木材加工後にアルミサッシを切断するときは、ダストバッグ内の切りくずを捨ててから作業してください。

ダストバッグ内に切りくずが一杯になると、手前に切りくずが飛散します。

一杯になる前にダストバッグから切りくずを取り除いてください。

傾斜切断の際は、右図のようにダストバッグが垂直に垂れ下がるように、サポートバーを調整して取付けてください。



各種調整方法について

● 刃口板の位置調整

⚠ 警告

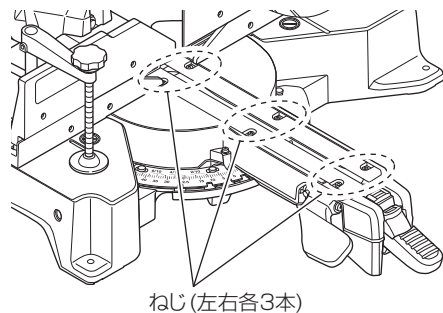
材料切断時は刃口板とこの刃のすき間より、薄い切り落としはしないでください。この刃に材料が巻き込まれて周囲に飛散するなど、けがの原因になります。

刃口板は切り落とし材がこの刃に巻き込まれるのを防止する働きがあります。刃口板の端がこの刃側面と一致するように位置を調整してください。

1 刃口板を固定しているねじ（左右各3本）をゆるめ、左右の刃口板間が一番開いた状態で仮締めします。

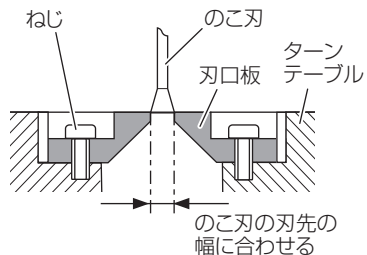
2 ヘッド部を押し下げ、固定ピンを押して下限位置に固定しスライド固定用ノブをゆるめます。

3 ヘッド部を前後にスライドさせ、左右の刃口板がこの刃の刃先側面に軽く触れる位置でねじ（左右各3本）を締付けます。

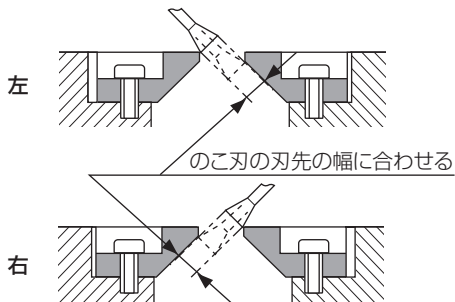


注 傾斜切断は、直角切断と刃口板の間隔が異なります。作業する傾斜角度に合わせて刃口板を調整してください。（P.31「傾斜切断」参照）

直角切断に合わせる場合



傾斜切断に合わせる場合



● この刃の下限位置の調整

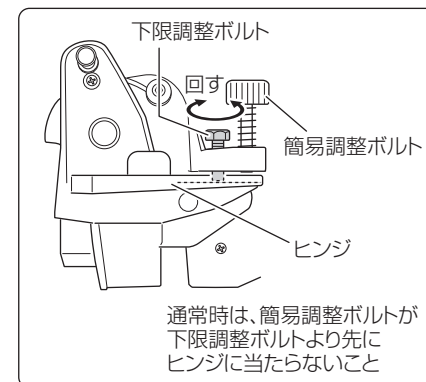
⚠ 警告

- 刃先を再研磨してこの刃の外径が小さくなったときは、この刃の下限位置調整をしてください。
- この刃でターンテーブルを切断しないように、また、切り残しがでないようにこの刃の下限位置を調整してください。

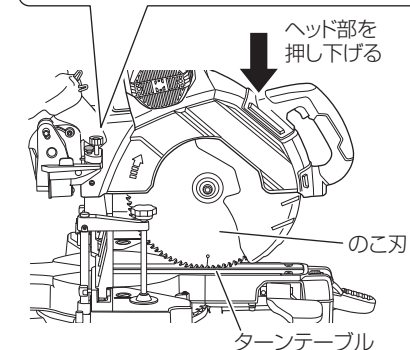
工場出荷時にこの刃（305 mm）は、ターンテーブル上面から刃先（この刃の下限位置）が9～11 mm 沈んだ位置で止まるように調整してあります。

この刃の下限位置は、以下の手順で調整してください。

1 ヘッド部を押し下げ、下限調整ボルトの先端をヒンジに突き当てます。

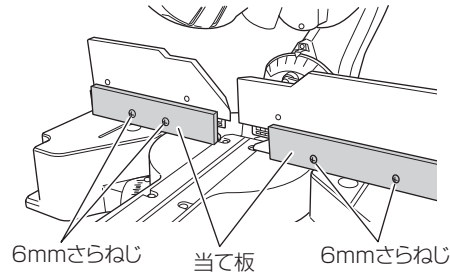


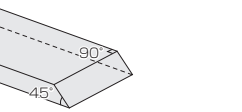
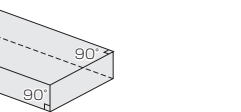
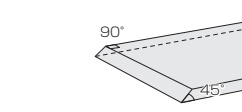
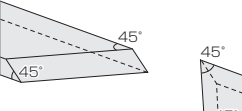
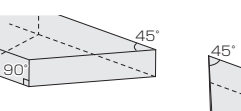
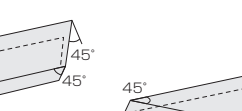
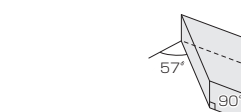
2 お手持ちの13 mm スパナで下限調整ボルトを回し、この刃の下限位置を調整します。



●高さの高い材料切断時の準備と調整

高さの高い材料を切断する場合、通常の切断では切り残しがでます。下の表を参考にして当て板を用意し、手順に従い準備してください。



のこ刃傾斜	左 45° 傾斜	直角	右 45° 傾斜
材料の高さ	70 ~ 75 mm	107 ~ 120 mm	45 ~ 50 mm
ターンテーブル 0° (直角)	 当て板幅 : 25 mm	 当て板幅 : 25 mm	 当て板幅 : 25 mm
ターンテーブル 左右 45°	 当て板幅 : 25 mm	 当て板幅 : 25 mm	 当て板幅 : 25 mm
ターンテーブル 右 57°	—	 当て板幅 : 25 mm	—

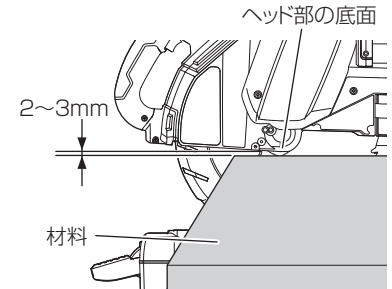
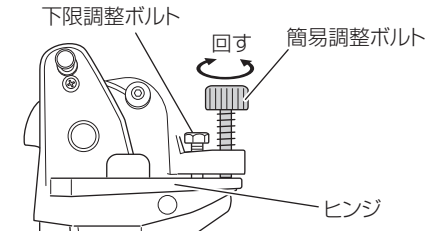
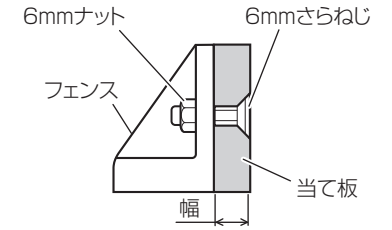
1 当て板は、フェンス面の 7 mm 穴 (左右のフェンス各 2 か所) を利用し、6 mm さらねじと、6 mm ナットで取付けます。

ヘッド部の底面が材料に接触しないように、下限位置を次の手順で調整してください。

2 簡易調整ボルトを使用し、下限位置を調整してください。

3 ヘッド部を最大に下げたときに、ヘッド部の底面と材料の上面との間にすき間が、2 ~ 3 mm あくように、簡易調整ボルトを回して調整します。

注 通常高さの材料切断時は、簡易調整ボルトを回し、下限調整ボルトより先にヒンジに突き当たらないように調整してください。



● 直角および傾斜ストップ位置の確認と調整

工場出荷時は、ヘッド部が0°(直角)、左傾斜45°および右傾斜45°で止まるように調整しています。

ヘッド部を押さえながら、傾斜ロックハンドルを解除して、次の方法で調整してください。

0°(直角)停止位置

8mmセットスクリュ(0°ストップ用)を、お手持ちの4mm六角棒スパナで回し、調整します。(右下図参照)

⚠ 注意

傾斜ストップ位置の確認・調整を行うときは、サブフェンス(A)、サブフェンス(B)を取りはずして行ってください。

傾斜時、機体やのこ刃が当たり、けがや機体損傷の原因になります。

左傾斜45°停止位置

セットスクリュ(左傾斜45°ストップ用)を、お手持ちの4mm六角棒スパナで回し、調整します。

右傾斜45°停止位置

① ヘッド部を押さえながらセットピン(A)を矢印方向に引き出し、右傾斜させます。

② セットスクリュ(左傾斜45°ストップ用)お手持ちの4mm六角棒スパナで回し、調整します。

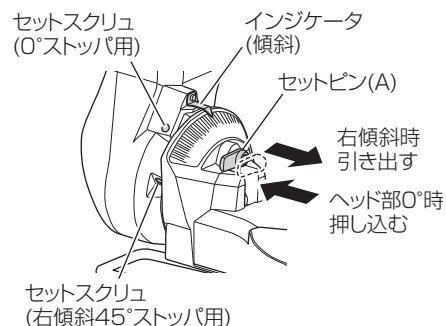
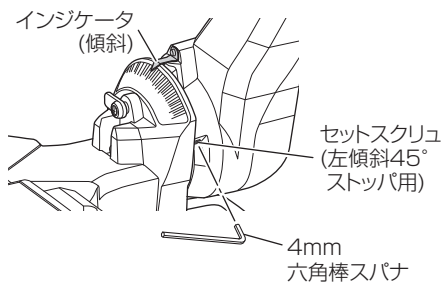
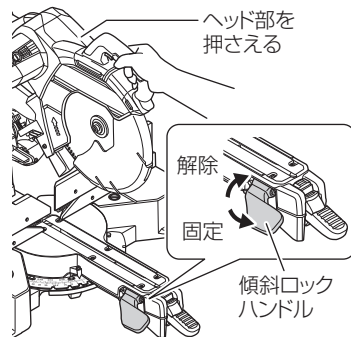
③ ヘッド部を左傾斜させて、セットピン(A)を押し込んでから0°の位置に戻します。

注 確認・調整後は、傾斜ロックハンドルで固定してください。

⚠ 警告

傾斜ロックハンドルを解除するときは、ヘッド部を押さえながら行ってください。

ヘッド部が急に傾斜して、けがや機体破損の原因になります。



● ターンテーブル直角度の調整

1 ヘッド部を押し下げ、固定ピンで固定します。

2 角度ロックハンドルを解除し、インジケータが0°の位置を指すまで回転させます。角度ストップレバーを押し下げます。0°に近い位置にきたらレバーホルダを引き、角度ストップを有効にすると0°の位置でカチとはまりません。このとき、角度ロックハンドルは固定しないでください。

3 フェンス(B)とこの刃にスコヤを当ててください。

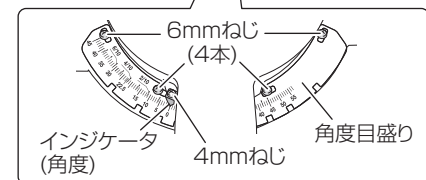
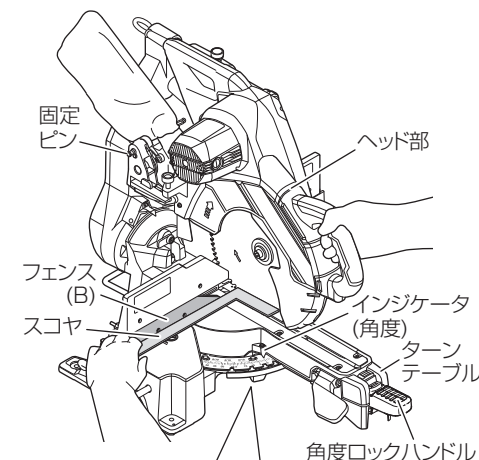
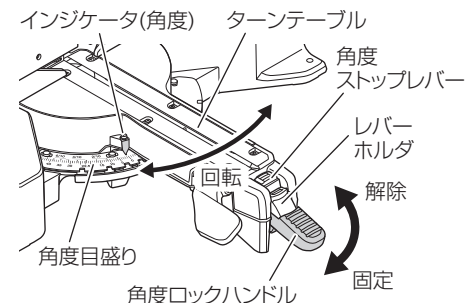
注 この刃のチップに触れないように、スコヤを当ててください。

4 のこ刃がフェンスに対して垂直でない場合は、角度目盛りの6mmねじ(4本)をゆるめて、直角になるよう調整してから締め直します。このとき、インジケータ(角度)の読み取りには注意を払いません。

インジケータ(角度)の調整

5 上の直角度を調整した後、インジケータ(角度)が正確に角度目盛りの0°の位置を指していない場合、4mmねじをゆるめインジケータ(角度)の位置を変えて調整します。調整後は4mmねじをしっかりと締付けてください。

② 固定ピンで固定



●サブフェンス位置の確認



⚠警告

右傾斜切断の場合、右側のサブフェンス(A)を取りはずして作業してください。
左傾斜切断の場合、左側のサブフェンス(B)を外側に移動して作業してください。
サブフェンスに機体やのこ刃が当たり、けがの原因になります。

⚠注意

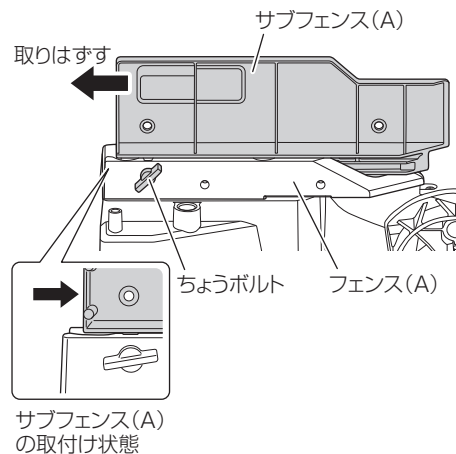
- 直角切断、左傾斜切断を行う際は、サブフェンス(A)を突き当たるまで内側にスライドし、ちょうボルトでしっかりと固定してください。
- 直角切断、右傾斜切断を行う際は、サブフェンス(B)を突き当たるまで内側にスライドし、ちょうボルトでしっかりと固定してください。

角度切断時に付属の、サブフェンス(A)とサブフェンス(B)を使用すると、材料を受ける面が広く安定した切断ができます。

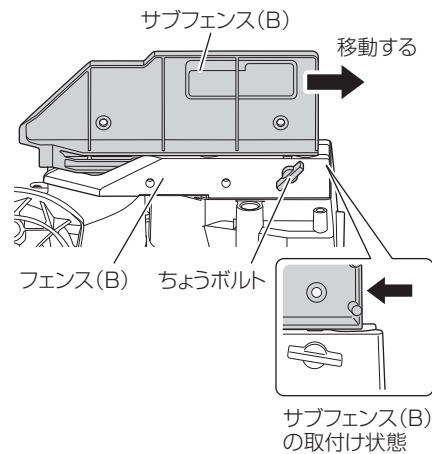
ちょうボルトをゆるめて移動し、材料に適した位置にしっかりと固定します。

右傾斜切断の場合はサブフェンス(A)を取りはずし、左傾斜切断の場合はサブフェンス(B)を外側へ移動してください。

右傾斜の場合



左傾斜の場合



⚠ バイス装置の使い方

⚠警告

材料は、フェンス面に押し当て、バイス装置でしっかりと固定してください。
手や足などで押さえると、けがの原因になります。また、切断精度が悪くなるばかりでなく、機体を損傷する原因になります。

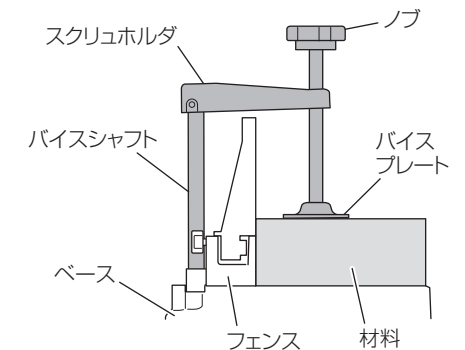
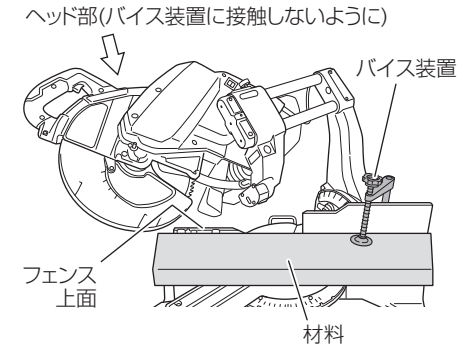
注 傾斜切断時、ヘッド部がバイス装置に接触する可能性がある場合は、傾斜方向と逆側にバイス装置を取付けてください。

バイス装置はベースの左右に取付けできます。

1 バイスシャフトをベースにさし込みます。

注 バイスシャフトは、ベースの取付穴にさし込み、ノブを回して材料を固定していけば、抜けなくなる構造です。

2 材料をフェンス面へ確実に押し当て、ノブを回して固定します。



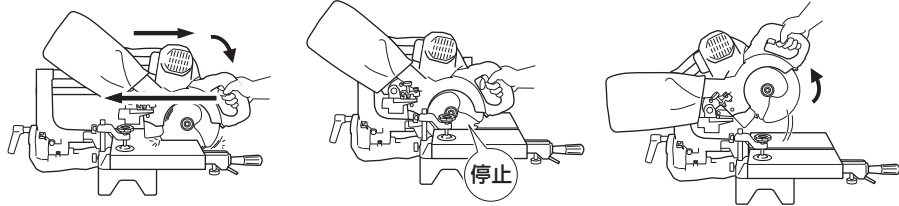
切断作業の基本

- 墨線の合わせ方 ● 押し切り切断
- 幅広材の切断 (スライド切断)

安全で、精度の高い切断のために、作業前に以下の注意をよく理解してください。

警告

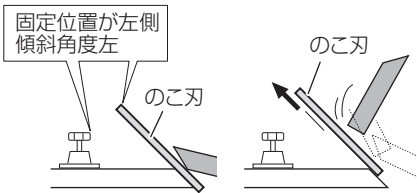
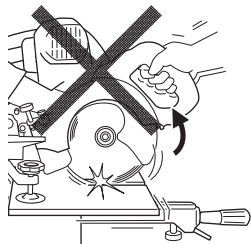
- 切断または切り込み作業の1回ごとにスイッチを切り、のこ刃の停止を確認してからハンドルを持ち上げて元の位置に戻してください。



① 材料を切断する ② スイッチを切る ③ 元の位置に戻す

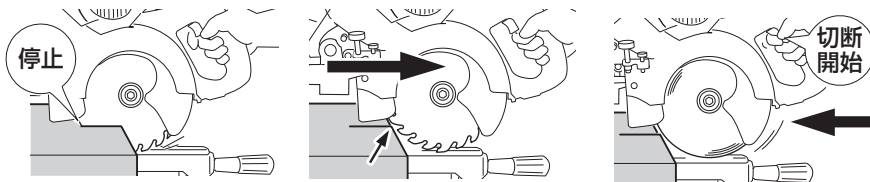
のこ刃が回転している状態のときに、ハンドルを持ち上げると強い反発力が生じたり、薄い材料の場合は、切り落とした材料がのこ刃に巻き込まれて周囲に飛散することがあります。

傾斜切断では、バイスの固定位置によって切り落とし材料がのこ刃の上に載る状態となります。のこ刃の回転が停止する前にハンドルを持ち上げると、切り落としがのこ刃に持ち上げられ周囲に飛散することがあります。



- 切断途中でのこ刃を停止した場合は、切断開始位置までのこ刃を戻してからスイッチを入れ直して切断してください。

中断した位置から切断を続けると、保護カバーが切断したのこ刃後の溝に入り込んで変形し、のこ刃に接触する恐れがあります。



① 切断途中で停止 ② 切断開始位置まで戻す ③ スイッチを入れる

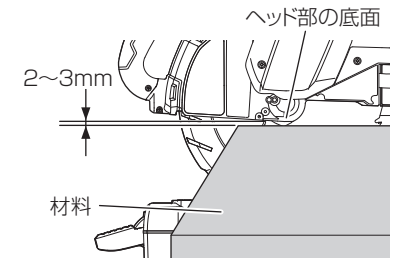
- 注 ● スイッチを入れ、のこ刃の回転が安定してからハンドルを静かに下ろし、切断作業を行ってください。

材料の近くでスイッチを入れると切断品質を落としたり、機体の損傷を招く恐れがあります。

- ハンドルは無理な力をかけずに静かに押し下げてください。切り込むときに強く力をいれても早く切れないばかりか、モーターに無理をかけ、故障の原因になります。
- スライド切断の場合は、途中で止めないで静かに押し進めてください。途中で止めたり、ハンドルを強く押し下げたり、左右方向に力を加えると、押し切り切断からスライド切断に移るさかい目にソーマーク(のこ刃の切断すじ)ができるなど、切断精度が悪くなることがあります。

- 通常高さより高い材料を切断するときには、のこ刃の下限位置調整をしてください。(P.21「高さの高い材料切断時の調整」参照)

- モーター部周辺を触って熱く感じる場合は、10分程度切断作業を中止してください。連続的に切断作業をすると、モーターが過負荷状態になります。



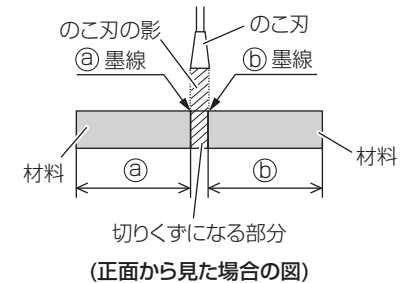
墨線の合わせ方

材料を切断すると、のこ刃の厚み分が切りくずになります。

①の長さが必要な場合は、①寸法の墨線をのこ刃の左側面に合わせてください。

②の長さが必要な場合はのこ刃の右側面に合わせてください。

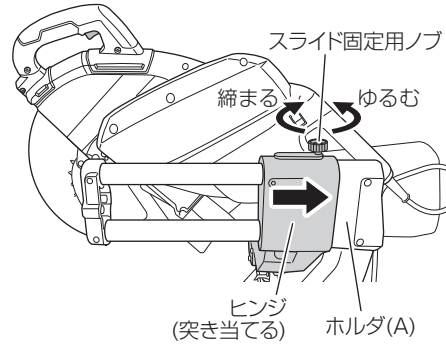
シャドーライトによるのこ刃の影と、墨線を合わせてください。(P.17「LEDシャドーライトの使い方」参照)



●押し切り切断

押し切り切断は、高さ 107 mm 角までの材料が切断できます。

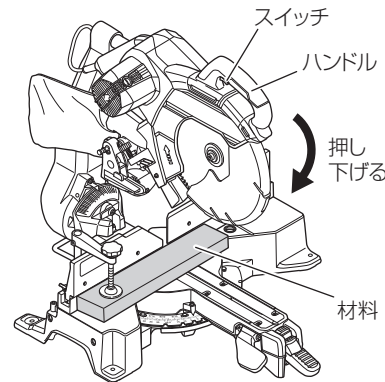
1 ホルダ (A) にヒンジを突き当て、スライド固定用ノブを締めます。



2 スイッチを入れ、のこ刃の回転が安定してから、ハンドルを静かに押し下げて材料に近づけます。

3 のこ刃が材料に接したら、ハンドルを徐々に押し下げて切り込みを深くし、切断します。

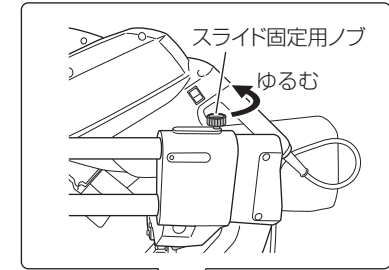
4 切断が終わった所でスイッチを切り、のこ刃が完全に停止してからハンドルを持ち上げ、元の位置に戻します。



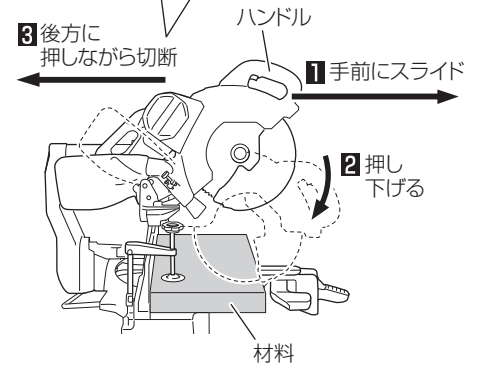
●幅広材の切断 (スライド切断)

スライド切断は、最大幅 312 mm までの材料が切断できます。

1 スライド固定用ノブをゆるめ、ハンドルを持ち、手前にヘッド部をスライドさせます。



2 スイッチを入れ、のこ刃を下限位置までゆっくり押し下げます。



3 下限位置から、そのまま後方に押しながら、切断します。

傾斜切断

● 左右傾斜各 0°～45°の任意の角度で切断

左傾斜

- 1 傾斜ロックハンドルを解除し、ヘッド部を左側に傾斜させます。
- 2 インジケータ(傾斜)を希望の傾斜角度になるよう目盛りに合わせ、傾斜ロックハンドルを固定します。
- 3 切断作業は、P.27～30「切断作業の基本」を参照してください。

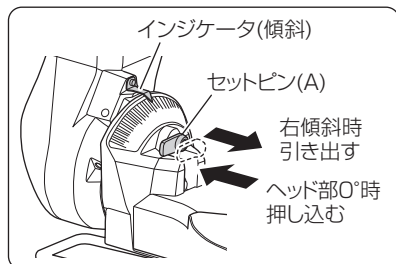
右傾斜

- 1 傾斜ロックハンドルを解除し、ヘッド部を左側に少し傾斜させます。セットピン(A)を矢印方向に引いて、ヘッド部を右側に傾斜させます。
- 2 インジケータ(傾斜)を希望の傾斜角度になるよう目盛りに合わせ、傾斜ロックハンドルを固定します。
- 3 切断作業は、P.27～30「切断作業の基本」を参照してください。
- 4 直角に戻すときは、傾斜ロックハンドルを解除し、ヘッド部をおこして0°より少し左側にします。その状態でセットピンを押し込み、右方向にヘッド部を傾斜させると0°で止まります。

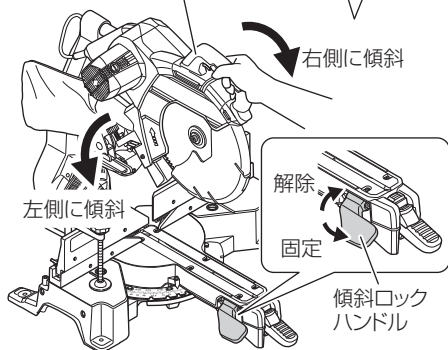
- 5 傾斜ロックハンドルを押し下げて、0°にヘッド部を固定します。

警告

傾斜ロックハンドルを解除するとき、ヘッド部を押さえながら行ってください。

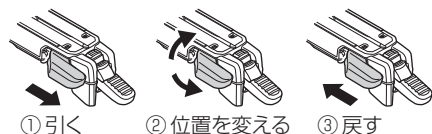


ヘッド部を押さえながら



傾斜ロックハンドルの固定位置変更

傾斜ロックハンドルは、固定位置を変えることができます。作業台や機体に接触するときは、傾斜ロックハンドルを矢印方向に引き、位置を変えてから戻してください。



角度切断

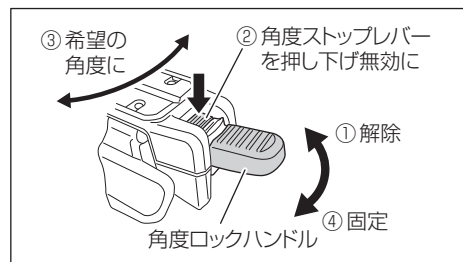
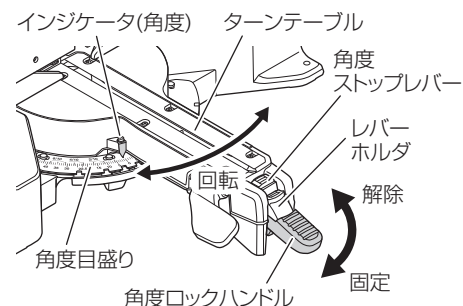
● ターンテーブルの回転で、左 45°、右 57°までの角度切断

- 1 角度ロックハンドルを解除し、角度ストップレバーを押し下げるとレバーホルダが機能して、角度ストップが無効になります。

- 2 ターンテーブルを回して、インジケータ(角度)を角度目盛りに合わせます。

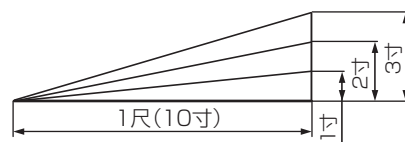
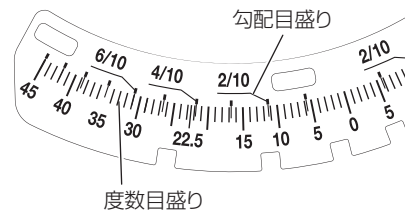
- 3 角度ロックハンドルを押し下げて、ターンテーブルを固定します。

- 4 切断作業は、P.27～30「切断作業の基本」を参照してください。



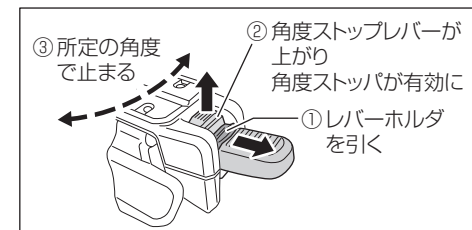
度数目盛り・勾配目盛り

ターンテーブルの角度スケールには、度数目盛りと勾配目盛りを表示しています。勾配目盛りは、水平距離 1 尺 (10 寸) に対する立ち上がりを寸で表しています。例えば、勾配目盛り 2/10 は 2 寸勾配を表しています。



角度ストップ

ターンテーブルには、0°および左右 15°、22.5°、31.6°、45°に角度を合わせることができる角度ストップが付いています。角度ストップが付いた角度では、その近い角度まで回転した後レバーホルダを引くと、角度ストップレバーが上がり角度ストップが有効になります。角度ロックハンドルを左右に動かすと、角度ストップで止まる位置に固定されます。



複合(角度+傾斜)切断

複合切断により配付け
だる木加工ができます

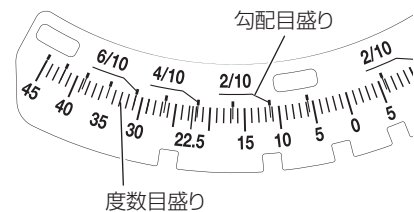
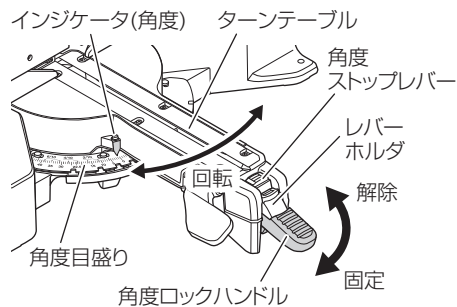
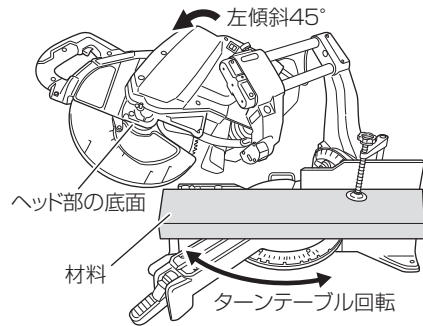
警告

右傾斜切断の場合、右側のサブフェンス(A)を取りはずして作業してください。
左傾斜切断の場合、左側のサブフェンス(B)を外側に移動して作業してください。

- 注**
- のこ刃が傾斜45°の場合、ターンテーブル回転角度は最大45°です。
幅75mmまでの配付けだる木加工の場合、幅25mmの当て板を使用します。
このとき、のこ刃が下限位置のときヘッド部の底面と材料の上面との間にすき間が
2~3mmあくように調整してください。
(P.21「高さの高い材料切断時の調整」参照)
 - 切断時の高さ75mmが、すみ木接合方向の幅75mmとなります。

幅75mmまでの配付けだる木加工は、
のこ刃を45°に傾斜させ、ターンテーブル
を回転し、インジケータ(角度目盛り用)に
希望の勾配目盛りを合わせて切断します。
なお、加工寸法を次ページの上表に示し
ます。

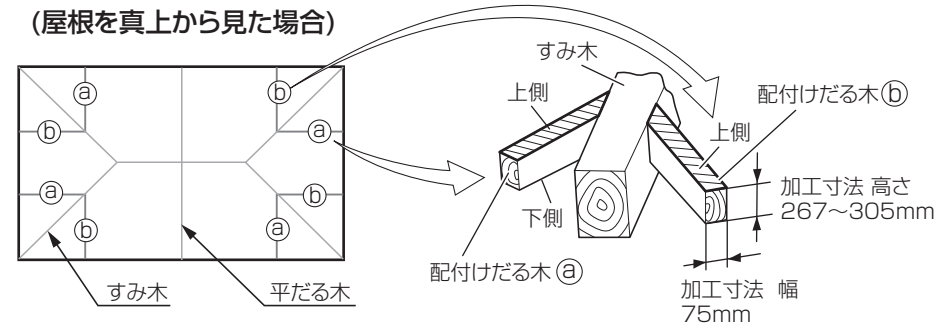
ターンテーブルの回転方向により、すみ木へ
の接合方向が次ページの下表に示すよう
異なりますので十分注意してください。



幅75mmの配付けだる木加工

屋根勾配	のこ刃傾斜角度	ターンテーブル回転角度 (勾配度数目盛り)	配付けだる木加工寸法 幅×高さ(mm)
2 寸勾配	45°	2/10(11.5°)	75 × 305
2.5 寸勾配	45°	14°	75 × 302
3 寸勾配	45°	3/10(16.5°)	75 × 299
3.5 寸勾配	45°	19.5°	75 × 294
4 寸勾配	45°	4/10(22°)	75 × 289
4.5 寸勾配	45°	24°	75 × 285
5 寸勾配	45°	5/10(26.5°)	75 × 275
5.5 寸勾配	45°	29°	75 × 272
6 寸勾配	45°	6/10(31°)	75 × 267

(屋根を真上から見た場合)

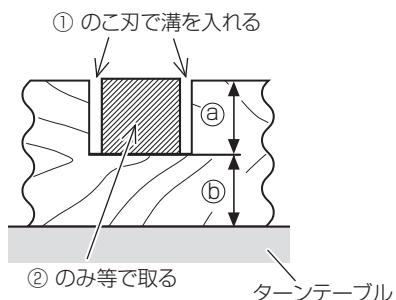


加工方法	
加工寸法	加工寸法 幅 75 mm までの配付けだる木 (切断時の高さ)
注意事項	図中、配付けだる木 ①、②の太線側が、すみ木接合時の上側(斜線部)になります。(上右図参照)

● 溝を入れる作業

ターンテーブル上面から、のこ刃までの距離⑥にのこ刃の下限位置を調整すると、のこ刃の深さ③で止まるような溝加工ができます。

のこ刃で溝を加工したのち、斜線部は、のみ等で取ってください。



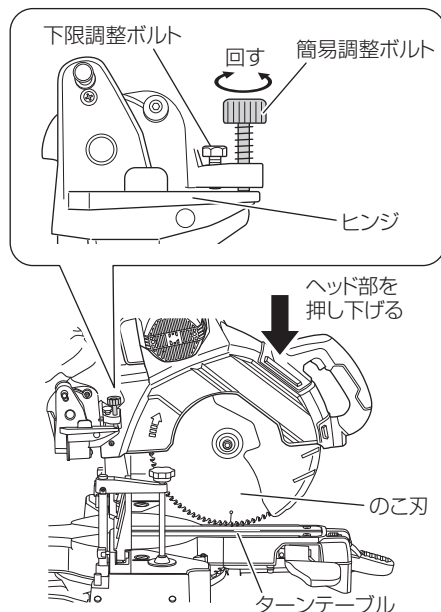
のこ刃の下限位置の調整

簡易調整ボルト先端とヒンジが突き当たった状態で、ターンテーブル上面からのこ刃までの距離が⑥になるよう簡易調整ボルトを回し、のこ刃の下限位置を調整します。

簡易調整ボルト1回転で、のこ刃の下限位置が約4mm変わりますので目安にしてください。

これにより、ターンテーブル上面からのこ刃までの距離⑥を約21mmまで調整できます。

注 通常高さの材料切断時は、簡易調整ボルトを回し、下限調整ボルトより先に、ヒンジに突き当たらないよう調整してください。



● アルミサッシなどの変形しやすい材料を切断する

⚠ 警告

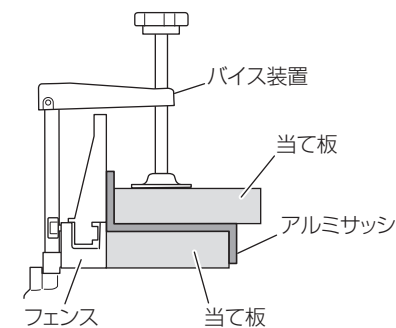
切削油（スピンドル油）を使用するときは、周囲に火気のないことを確認してください。

⚠ 注意

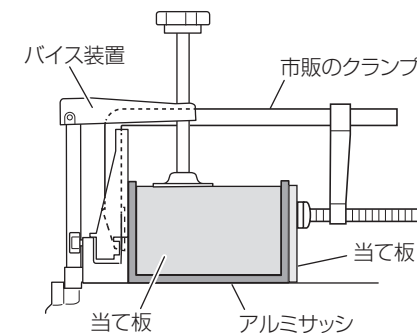
アルミサッシなどの板厚の薄い材料は、当て板を使用せずバイス装置で締付けると変形し、モーターに無理な負担がかかります。また、切断時材料が不意にバタつき、のこ刃に衝撃的な力が加わることがあります。

- 注**
- アルミサッシ切断時は刃物の刃先に切削油（スピンドル油）を塗布して切断すると、無理がなくきれいな仕上げ面が得られます。
 - 木材加工後にアルミサッシを切断するときは、ダストバッグ内の切りくずを捨ててから作業してください。
 - アルミサッシ用チップソーを使用してください。

変形しやすい材料を切断する場合は、右図で示すように必ず当て板を使用し、材料の切断部の近くまでは挟んで、バイス装置で締付けてください。



さらにU形状の材料の場合は、横方向からの固定をします。右図で示すように当て板を使用し、材料の切断部の近くまで挟んでバイス装置と市販のクランプを併用して締付けてください。



ガイド【別売部品】の取付け

ホルダについて

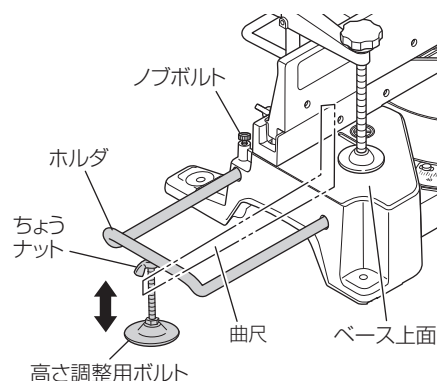
ホルダは、長い切断材料を安定させる物です。曲尺などを使用し、ベース上面とホルダ上面を一致させます。

ホルダは2個セットになっていますので、ベースの左右に取付けることができます。

ちょうナットをゆるめ、高さ調整用ボルトを回して、ホルダを上下方向に移動し、調整します。(右図)

調整後はちょうナットをしっかり固定し、付属のノブボルトでホルダを固定します。

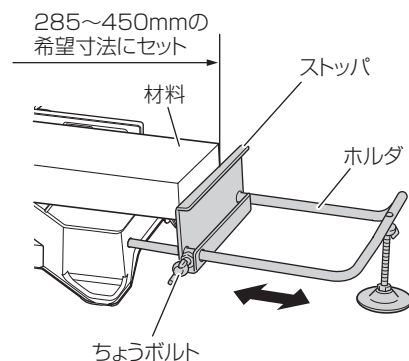
高さ調整用ボルトの長さが足りない場合は、下に薄板を敷いてください。また、高さ調整用ボルトの先端はホルダから出張らないようにしてください。



ストップについて

285～450mmの定寸切りには、ストップを使用して作業すると便利です。

ストップは、ちょうボルトでホルダに固定します。



保守・点検

● 機体の点検

各部部品の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。異常がある場合は、お買い求めの販売店に相談してください。

● のこ刃(チップソー)の点検

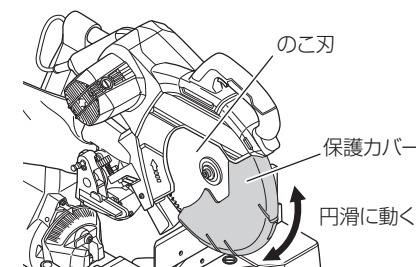
切れ味が悪いのこ刃(チップソー)を使用すると、モーターに無理がかかり作業の能率も落ちます。

早めに新品と交換してください。

● 保護カバーの点検と掃除

保護カバーは、いつも円滑に動くように付着した切りくず等を掃除してください。

注 保護カバーが円滑に動かない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。



● 清掃する

機体が汚れたときは、石けん水に浸した布をよく絞ってからふいてください。

シャドーライトのレンズに、切りくずなどが付いてのこ刃の影が見えにくくなったときは、レンズを乾いた布か石けん水を付けた布などでふき取ってください。

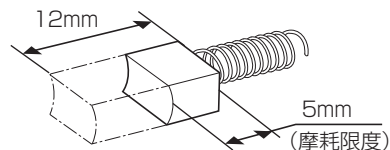
ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類はプラスチックを溶かす作用があるので使用しないでください。モーター部は水や油でぬらさないようにしてください。

●カーボンブラシの点検と交換

モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しております。

カーボンブラシの摩耗が大きくなると、モーターの故障の原因になりますので、長さが摩耗限度(5mm ぐらい)になりましたら新品と交換してください。

また、カーボンブラシは、ごみなどを取り除いてきれいにし、ブラシホルダ内で円滑に動くようにしてください。



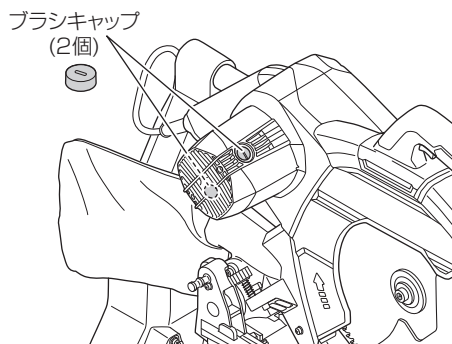
- 注**
- 新品のカーボンブラシと交換の際は、弊社指定のカーボンブラシを使用してください。指定外のカーボンブラシを使用するとブレーキがかからないことがあります。
 - 新品交換後の運転でカーボンブラシから臭いがでますが、故障ではありません。5分間ほど無負荷運転をすることによって、臭いは少なくなります。

1 マイナスドライバーなどでブラシキャップを反時計方向に回してはずします。

2 カーボンブラシを取り出します。

3 新しいカーボンブラシを、ブラシホルダの角穴に合わせて指で押し込みます。

4 ブラシキャップでカーボンブラシを押さえ込みながら、マイナスドライバーなどで時計方向に回して締付けます。

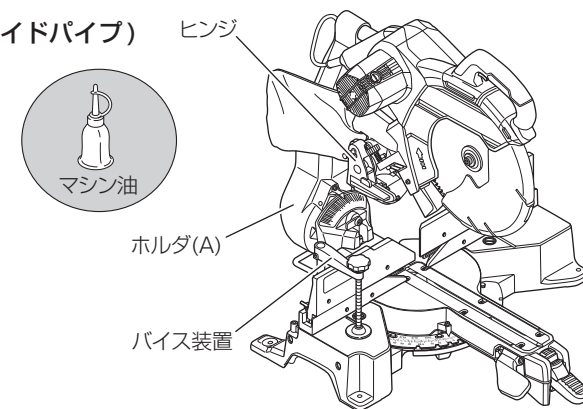


●注油する

本機を長持ちさせるため、月一度の割合で注油点に注油してください。(油はマシン油が適当です。)

【注油点】

- ヒンジの回転部と摺動部(スライドパイプ)
- バイス装置のねじ部
- ホルダ(A)の回転部



●モーターの取扱いについて

モーター(内蔵)(P.7「各部の名称」参照)に、油や水が浸入しないよう十分に注意してください。

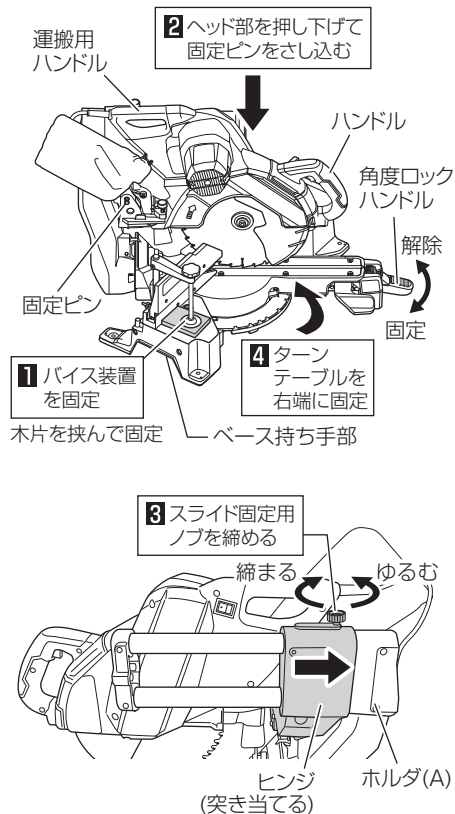
- 注** ごみやほこりを排出するため、50時間ぐらい使用しましたら、モーターを無負荷運転させて、湿気のない空気をモーター後部の風穴から吹き込んでください。モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。

●機体の運搬

⚠警告

ガイド【別売部品】を取りはずして機体を運搬してください。
機体より抜けると、けがの原因になります。

- 1 バイス装置は、運搬時落下する恐れがありますので、取りはずすか、木片を挟んで固定してください。
- 2 ヘッド部を押し下げて、固定ピン (P.12「固定ピンの解除」参照) をさし込みます。
- 3 さらにヒンジがホルダ (A) に突き当たる位置でスライド固定用ノブを締め、ヘッド部を固定してください。
- 4 角度ロックハンドルを解除し、右方向に突き当たるまでターンテーブルを回し、角度ロックハンドルを押し下げて、ターンテーブルを固定します。
- 5 ベース側面の持ち手部を、両手で抱えるようにして持ち運んでください。
また、二人で運搬する場合は、ベース側面の持ち手部、運搬用ハンドル、ハンドルをそれぞれ両手で持って運んでください。



メモ

●機体や付属品の保管

下記のような場所は避け、温度が50℃未満で乾燥した安全な場所に保管してください。

- お子様の手が届く場所、持ち出せる場所
- 軒先など雨が降りかかる場所、湿気がある場所
- 温度が急変する場所、直射日光が当たる場所
- 引火や爆発の恐れがある揮発性物質が置いてある場所